

下
巻
集
上



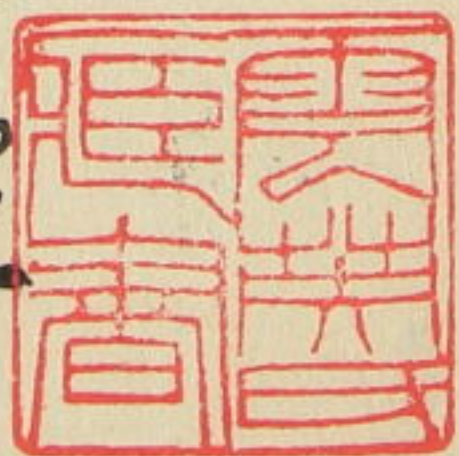
明治十年

七月二十日水

田中多作

於 東京 所持

雑談集



諷を俳諧の源氏なりとしく作色一
 向の格をよしし凡百番のくもあそ
 目ありつ詞平近きもよ新めん
 既中トキニをありかやうのコトをさすか
 自向他句れきやんをなくものせし
 うむいつその程よ自他とものあつし
 けいけい新フモヒナなるくすとせしゆりけい
 新めぬくいひやみくも風流めく

つらもほよまらせくはあはれいひ
思ふらわらるるあり江口の墨は
とほれとも侍あり成人時多梅翁
と云句を詠りて其實を移さ所
肌骨よ入^ニて情ねともあつていふ附
るこそ初をなうやあよ大津よそ
雪の日や船長とのあふ影の色其角
とりける次乃年の色
花の蔭うひよ似ら旅宿少芭蕉

とやのこり終くも章なうくと能
指の初これ世へまをこと思ひ迄

憶芭蕉翁

其角

月華や洛陽のる社跡をく

ほせまをみねる 裴東 溪石

そらの巢を次韻の真よほころひ 揚水

くくくくくくくくくく 蟹の味ひ 普船

上田をたぐくくくくくく 苗のたや 仙化

あやあやあやの水乃宗^{オヤ}川 角

何ツムシのよみ先へくさるる家まの脚石
膳ツムシの節もかひれ傘水
玉姿の御堂を瓦下地をり
鳥トト出ふ三條の音化
糸タテ望タテ子かひけてあもは菊の長タテ角
絲タテ篋タテのタテかをさくらあてる柿石
小坊主の藝の敷をさす月の友あ
所タテ完タテゆのほひ祭禮の園舩
うちひく酒を庭に涼むらん
化

るをぬきせしと斬リシ種タテを干す角
あゝ一タテれ十夜のもちを案タテけり
甲斐くまへく旅て子を産タテ水
お銀の香タテをいりり子タテ薫タテけり
昼時かまへ恋の悪タテ物タテ化
あつたふと食の玄関人おれり
苔れ下りり路り墓石
山佛は僧のと目啼タテ水
膚ハタの百首をまればおの月
舩

序遠ひの船もいつの巳の後ウラ他
なも勢神の勢来ぬ吹角
揚貴妃の勢もつゝある山つゝ石
瘰癧ヒョウソクの瘰癧も下すの泪もあ
足入るはつゝも自よ餅の来船
志已く寒くある雨化
亭主婦をとり後ハかんざりと角
るやうの丸馬船フネあひ音る
麻アサあせこの山あひの静なるあ

めくを枝打の傍正の谷船
目の玉のあつゝも貝あき
空死しをれ孤をせん角
朝まのた肩ツボ子の丸をうちこぼる
ほもれはを焼く名もる水
かゞげまのそくもる切モクサ舟船
五ツの四ツの舟もあひ鐘化
御神ゴ輿シ子コる流の澄を輝カマり角
かゞぎを顔をもひく女房石

銅蓮の水子梨製の新下角
木の糸地蓮柱をく干らん
夕月子茶入をせは鼻 賤 水
古不箱敷を物 表をを如
一面子所承乃をそのお替り
襟 膝 盛 角
世間氣子白髪つづり色活立
同 一 文 一 候 勢 の 結 龜 糸
秋 一 一 の 盆 子 の せ じ 糸 藤 籠 踏 糸

老のうらま漕ヶや夕ゆれり
一二二森八景のよむ目よあき
花のうらりよ海は小娘
御名はくは師がまありく着れを
た社の神のみゆる陽を
鳳 輦 を さいで 降る 大和川
次なる武者の年を 同 角
名月子 藤 朗 詠 の 一 角 石
尾 起 ち の つ ぎ 一 招 け 糸 水

老うゆりもちハゆりもちハ教珠丸系石
くさゆりもちもちハ元教の声水
大計のちもちもちハ煮出之籠船
宿もちもちもちハ本陣の幕化

七月朔日新秋酒多

呈餞

具角

うけて休伴ふ籠もろり桐の乳
ついろと色みれそ文月の風彫棠
そくろり角をうろりもちもちもちハ肅山

二

目まのこは桐の葉かれおろりか全
たおろりこつれそ角り宿より角
上中と酒とのある月待し棠

相乃紫を束をりぬき三日の月 棠
 高を修るも進かたり新 中
 丁未の日は古き男ハ馳走して 角
 六月晦日のおろし親圓きの名状
 ことわりし一夜吟
 相のそや土用の中をもとて 光目 彫棠
 竹をさるまゝおぼろめ 夕立 具角
 入川にけぬらぬ舟の楫を 今

橋をぬきあまの 秀のありしぬ 棠
 魚のひの灯立てくお せしのみ 全
 豚を冷やぬ一と三 癖の秋 角
 控えてし 腰のわく ぬ 固まゝ 棠
 目張をくくは二階の せよ 角
 あつたすをた 袋く入て 集り 棠
 片をさるまゝ 寝を 指も ねと ぬ 角
 塙舟をさるまゝ しのり せり 棠
 立て 形よき 幣の け 風 角

最近の装束とりし酒の時 棠
 四者此新ん子菟^{カキ}とあ山 角
 齒のゆるみ書をよむ初^{カキ}の巻の 棠
 蘭^{カキ}とつゞきつは嵐やさしよ 角
 やうとと子瓶^{カキ}をわたりし花の時 棠
 僧をもつてしる涅槃會の拜 角
 小佐居子又建^{タニ}並はもれ菴 今
 連^{タニ}この所の定よりし國 棠
 杖竹を光はるり子突^{ツキ}たん 角

石切^{カキ}のくく 門^{カキ}の雨^{カキ} 棠
 とかノ奥をちもや清見寺 角
 舟^{カキ}を繪とみゆる松の掛^{ツキ} 棠
 新^{カキ}のほと丸代志もく人徳風 角
 拂^{カキ}金をさくくもあ 曉 棠
 新^{カキ}しい草履^{サウ}はうる兒^{カキ}戀の圖 角
 狐の尻^{カキ}をく入^{カキ}うこれ月 棠
 加茂川より新ハ流る瓜^{カキ}茄子 角
 瓶^{カキ}う是^{カキ}あきこ小^{カキ}草^{カキ}外^{カキ}る 棠

縁よりをふかすゆる石の初ありし棠
お堂よりをふかすゆる石の初ありし棠
尾キニと同一に備あり女房蓮棠
箸とて手つゞぐおありしころ同
散シとて夜氣のちどりも窓角
必スるより一より帰全
彼もたをれを由りて紫黒ユクの夜にけ
しり胃子ら白めひ合たりし
出ほりやせりて奥あるはらんも
蕭山

何れも向くと旅の石を初ありし
七つや影ひよとて色小神多秋山
茶衣よりして舞代隅スニより息のむき
此の影や血の流るる解ころ全
砂暑をさすか馬の上の板平懐クイし
鳩の目や笠よりをせらるひく相全
葉をよしてゆり尋し
いざらとてをふかすゆる石の初ありし棠
かみありしやせりて奥あるはらんも
山
彫棠

伊予近下籠よりしづの里ありてみづり
川舟をとりて江口の船より山
目とありてなほひをゆるるをける

おれがそのひたのふれみ木槿垣 全
宿のまろくもくしふのうらるや舟は月 全
飲のまろくもくしふのうらるや舟は月

ぬくひなむしほ神くあるすのみ 崇
ちくしほむしほ神くあるすのみ 崇

伊予のれありてあはれ国の船山

お目とこころいかに目

播磨相玉の沖をとりてはつら山
宿の梢の近つてあり

桐のありて妹かたしえい 全
えぬてやなくしてはこそ 全
そのを師業とよめなるを解とみる所
おのれをのつとてしほのありて
よりありて 報徳のつとてしほのありて
あつらひのありて 全

ナラサリ

つ七月十

とくして猫の尾をうらむる 棠
白雪子、まふ並をうらむる 角
うらむるのやうにありし 淨瑠璃山
此所のかたむきようこまり 棠
贈り 勝る成花年九月 角
関とハ轡をうらむる 約むく
宗近 遠浅くく乃 秋 棠
珠をるを出さく 葦に宿 角
皆ハ畑を地子の 俺も 山

^吾春日 乾いぶらふ子 輝うらして 棠
翠子に古さくいとゆきん 角
よぶめを門のむ舎もみぬあり 山
此坂ひらら車 ちをさあ 棠
今や旅高親音子 湖をうらむ 角
きのみの髪れくひるる 風 山
まをくのぬきよ負くを 例る 棠
るをを 揚枝をもちく 能 角
酒尊くくらのぬきよを 比真ある 山

迷惑ウツクシの〜 馬ウマ子コなる 袖スリーブ 棠タラシ
 養ウツクシをウツクシ割ウツクシらウツクシらウツクシいウツクシ〜 月ツキのツキ乃ノ 角ツノ
 きれウツクシこウツクシ平ウツクシ毒ウツクシれウツクシあウツクシ〜 山ヤマ
 ぬウツクシ〜 山ヤマ 寒サムイ〜 棠タラシ
 ぬウツクシ〜 角ツノ
 折ウツクシ節ウツクシハウツクシ持ウツクシちウツクシ〜 寺テラ若ニギハヤヒ流リウ 山ヤマ
 わウツクシ〜 素ス新シンのシンのノ〜 棠タラシ
 物モノ折ウツクシ〜 乃ノ 木キ多タ〜 柱ウツクシ 垣ウツクシ
 小コ〜 山ヤマ 村ムラ手テ吹フク〜 角ツノ

一葉出而一葉ハル巴ハ故ニ為ニ芭ハ
 一葉巴而一葉コカ焦カ故ニ為ニ蕉カ

了ウツクシ〜 水ミヅ 遠トウ水ミヅ
 木キ槿キのノ外ソトもモ垣ウツクシのノ石イシ川カハ棠タラシ 岩イハ翁ウ
 朝アサのノ更ミタ都トもモ月ツキ半ナ用ヨウゆユ也ヤ 其ソノ角ツノ
 也ヤ〜 箱ウツクシ 水ミヅ
 也ヤ〜 箱ウツクシ 水ミヅ
 番バン〜 柱ウツクシ 定テイ角ツノ

神弓のなまは年かきしめへ
けあろほくかよひ髪
藤七子の何子髪くまらと^{ナシキ}迄
袴由近こよ屏風ゆひぼる
こゆ^キく^キ割く^キく^キ栗^{ミツウカ}薑
たげ入^キく^キ四五文^キ菊
月影^キ板本尊を^キおろす^キ
あいの草鞋を^キぎて^キ玉簪
忽^キとり^キ大脇^キ毛^キを^キ犬^キお^キ
角 翁 角 翁 角 翁 角 翁

まろや^キ雪^キま^キぼ^キ指^{ユヒ}松^キあ
卓^{タク}敷^{サン}子^キむ^キる^キ奥^キの^キ庭^キ 翁
甍^キの^キ庭^キを^キあ^キく^キ
世のなま^キ寺の男^キを^キ出^キる^キし
親子^キく^キも^キ百姓^キと^キよ^キお 翁
心^キの^キ詞^キを^キ籠^キを^キ次^キぐ^キや^キあ 翁
ろ^キろ^キあ^キめ^キく^キ肥^キる^キ原^キあ 翁
葉^キく^キ石^キく^キ滑^キを^キ撰^キる^キあ 翁
ころ^キが^キを^キ耻^キに^キな^キる^キ雪^キあり 角

忍みよひ男のつらき心肝キモいん
袴ハカマあつちをくさるあつちをくさる
秋ささと年玉扇トシタマのけしきわく
いゝもくんのほろり醫者イシヤが
朧ロウなる月子をたぐひを送るは
花を物をもつた宗論シウロン角
刺筆チシツの旗ハタをくさるあつちをくさる
山崎ヤマザキのくさるあつちをくさる
おとく川カハ燕カガの枯葉をかた流カハ角

煤スエくくわんな近チカなる
大箱オホハコをくさるあつちをくさる
お梅お梅をくさるあつちをくさる
角

八月十八日

雨中吟

仙化

川カハつ子コ楫カキをくさるあつちをくさる
月ツキをくさるあつちをくさる
鈍子ツルシと花ハナをくさるあつちをくさる
其角

ひよふまのらん棟上の樞化
 初雪を師をよめくかきせむ
 ぬこもくち年の魁^{ユレ}柔物
 人をもあそみてねむ乳付^テ靴
 睡^{ナド}り日比^{ナド}りも^{ナド}信心
 むねをあひてたのり^{ナド}みこ
 それ^{ナド}の造の菴の^{ナド}立^{ナド}け
 鶏^ニの籠^ニうぐ^ニく^ニあ^ニり
 柿^ニはく^ニり^ニ柿^ニの^{ナド}あ^ニる^{ナド}
 船角化 船角化 船角化 船角化 船角化

社のくれ玉をいそぐみ香より
 神田系よりおん兄才
 月より^{ナド}利^{ナド}至^{ナド}輔^{ナド}師^{ナド}の^{ナド}路^{ナド}つ^{ナド}る
 不帯を^{ナド}通^{ナド}る^{ナド}裏^{ナド}門^{ナド}の^{ナド}あ^ニる
 いそぐ^{ナド}か^{ナド}を^{ナド}麥^{ナド}飯^{ナド}く^ニひ^ニる^{ナド}初^{ナド}茄子
 遊^{ナド}遊^{ナド}山^{ナド}を^{ナド}八^{ナド}幡^{ナド}く^ニり^{ナド}あ^ニる
 草枕^{ナド}湯^{ナド}垢^{ナド}の^{ナド}さ^{ナド}り^{ナド}あ^ニる^{ナド}ま^{ナド}り
 命の恩^{ナド}より^{ナド}あ^ニる^{ナド}盗^{ナド}人
 こめ^{ナド}く^{ナド}や^{ナド}ぎ^{ナド}る^{ナド}寐^{ナド}忘^{ナド}れ^{ナド}乾^{ナド}目^{ナド}乾
 船角化 船角化 船角化 船角化 船角化

あまのりおそひ子酒くらり吐^カ化
消る身の上味線ひくも我^ガみ成^ル角
くくらり顔をほくら^ハ急^キ乞^ヒ船
闇のおも物次^ノせびき^ハ咳^{セキ}拂^ヒ化
子を杖^ヲなる老の小便^ノ角
ひくら^ハ万部の舞^ヲ入^ルのくら^ハ船
よ^ハ色くら^ハも松風^ノ化
名月の竹を定むら^ハ雀^ノ角
かいづも^ハせも大沙^ノの^ハ明^ノ私^ノ角

^{ムキ}貫^ルる^ハ我^ノ新^ノ法^ヲみ^ハ一^ハ断^ルる^ハ化
萱^ノり^ハあ^ハし^ハ一^ハ並^ル碇^ノ紐^ノ角
鳥^ノつ^ハも^ハち^ハい^ハき^ハ猫^ノハ^ハと^ハく^ハも^ハくら^ハ船
手^ノつ^ハれ^ハづ^ハの^ハ煙^ノ氣^ノの^ハま^ハめ^ハの^ハ影^ノ象^ノ化
物^ノ華^ノの^ハま^ハれ^ハく^ハ氷^ノは^ハる^ハの^ハ雪^ノ角
柳^ノの^ハ一^ハま^ハは^ハ死^ノゆ^ハひ^ハの^ハ垣^ノ船

丁^ノの^ハ一^ハ
一^ハ芭蕉菴^ノの^ハ月^ノひ^ハん^ハら^ハ舟^ノ借^テて^ハ美^ノの^ハれ^ハと
名^ノ月^ノの^ハ地^ノを^ハあ^ハら^ハつ^テあ^ハと^ハひ^ハら^ハ翁

ともして形もさし出せぬおほいなる雲をあらはし
 客の舟大橋ワカは坊カをこえていざなす風を懐引方小
 樽也トモも名を冠せしむる千代紙の紙を
 船トモのこころを酒あててさかたててさかたてて
 名もりもさしめぬ形もぬ小舟は
 ありていづれも我こそかた感さうの耻す九ツを
 竹ウクハメトウゼニスこけりより羽化登仙は二字仙化のふと
 こころをけホヒ吼えんホヒの心をとり遊覧けふ半世の
 ともしてさうりりりりりりのほを乗舟句多

吼雲

日待法樂 燭寸 巖翁亭

龜翁

賑り午ほりよの暈の朝日は
 廣やお會もて来宵の月
 帆柱の入津や舟のとの秋風
 ともして羅の造も滴ツラや
 庭場あみそくえしはるまを
 幕もさる時を樂屋定する
 羽織もさる年のさうよ探泉探泉
 京扇やしてゆをいさる
 芒風

山城のあまの牛鞆町女房 尺草

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 岩泉

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 遠水

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 龜翁

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 且水

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 岩翁

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 寺のあまの心を包む岩泉

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 横儿

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 未陌

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 採泉

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 芒風

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 尺中

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 岩泉

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 遠水

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 龜翁

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 且の

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 岩翁

あまの牛鞆のあまの心を包む岩泉 岩泉

子あるものと幼名をさすの事あり探泉
目と母をひくももある糸屑 芭風
物にひくもつゝあふ筆を結定て 横几
我瘦くつとと師兄笑へる 在氷
風呂を乃同じ換極を給れよよ 飛鳥
肥走をそつと入 拈 絞 探泉
付馬も具ある奴の年位 具の
土堤へありつゝ 拍 騎流馬 具角
名目の一板をすませ 濁川 入巾

かつちる極かえる葉の形 赤陌
籠ごりつゝお舎つゝ気秋茄子 芭風
カ使をこつと 物ヤ 岩翁
築捕りかゝる浴衣ゆかたももる 具角
火輪の勢やり流の隈く 赤翁
絨緑のそは産のそもつゝさふ 尺巾
椿を重よ 柱杖こつと 具の
人ねくのそどいももる 赤翁 赤陌
蜜柑ひつゝを採り 懐 具角

あさき茶臼のもちりりつ也 才甫
とさ乃位持く花のよき 世風
橋つ先子小屋むすむら繪る書 尺牘
湖を見はく二階瞬 岩泉
竹打も蟹子おろも刀け 岩翁
ころなくいおく杯の嗣次 横儿
奥口と花の業競とよしの山 且の
雉の光をみゆる 毳絨 才翁
はなぬの曝をるめく身をさき 採泉

浦の庚子上座 三種塩 志水
系飛のなきもあしふ坊を梳 未陌
おとし火燧又因む 老犬 才翁
世ををるあぶくれ 義と重く 岩泉
た右さも何連掛物の丈 芝風
酔よきれほひる月 友れ亭の 遠水
四條の板乃 露の 未陌
振袖はすし 靴くも 急のあや 横儿
胸紐はか 俵の 久の信 才翁

初アキのふい下くまをさほひる。尺艸

白げく足のみゆる

姐アキタ

岩倉

道生アキのふ茶然るる若荷タケ管 芒凡

藜アカガを直ナくゆる 東堂 横几

たさく井を流ルても水の沈シゆり 遠水

人のひくしてゆる 板橋 且あ

まのアキ寶子商シひ斗トル奥の級 未階

初葺アキのふ名をうる 青物アキハチ 探泉

笠アキ寺アキ子十八日アキ月アキ成アキる教アキ才アキ角

高キを階ハづく 新錢の塔 出泉

地の内アキも畠アキ下アキはアキる 割アキ余アキ一アキ具アキの

そとアキよりけくも高の輪アキ北山アキ 寺アキぬ

落アキたりし木屑アキをアキとアキれアキぬ作り 探泉

洞アキ室アキの体アキもアキとアキれアキぬ友アキをアキ連アキ 芒風

目待アキらアキらアキぬ具アキ候アキの辨アキあアキぬ 岩翁

果報アキのつアキつアキをアキ老アキれアキぬの幸アキ 未階

ぬまアキをアキ庫アキの裏アキ白アキ土アキ厚アキよアキ 横几

墨アキ塗アキの戸アキ極アキ 遠水

あるこの花あはる海に大鳥居 尺艸
導者いさむる春の昆布賣 松翁

一感師のそ利休の茶の湯あひて車をね
ひさのうらそのおろしのだまをい
身も古し是を新しなまを自らをとりて
ほめあひつねを利休散と不真めて新
古乃自利^キあましくひつねあましたる好
むもりしつねも^{カケ}欠措鉢あつとも時
みありし茶の湯の用やまを引ひつね
はるものさうひを^キ弁あて物数あは
ほむしあまありさうし^キ都語あはは

句と及重也 愚ハあましく 此後さく
の 必なるを 其席より ざりて 是ハ長
是ハ 丸珍重カ ぞく 点のあつく 目利セらる
る 亦ハ ねと ぬき しく ぢ 熱の かつ せ
所 席の ちが づら づら 的 時 宜く 付流
し ち ち ち ち ち 無点の 句 ぞ 是 用 じ
此 一 者 の 心 ち ち ち 句 ち ち ち ち ち ち
先 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
下 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 境

チカ

新吉の分別 ち ち ち 高く 守 ち ち 目
流 の 風 流 ち ち ち 幽 玄 此 一 句 ち ち ち ち
け ち ち ち ち ち ち ち 茶 巾 ち ち ち ち
ち ち 茶 巾 ち ち ち 作 ち 用 ち ち ち ち

時のよみ ち ち ち ち ち ち

茶 ち ち ち ち ち ち 茶 巾 ち 普 瓶
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 其 角
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 全
包 ち 銭 ち ち 湯 屋 ち ち ち ち ち

庭籠の梅のほろひる月丸船
 ちいさき鑊コテをさよふ丸窓角
 めるる色紙の泥のうらるる舞船
 糸金のぬきも人の代昌サカリ角
 月も似ぬ女もりたり能太文船
みづづまの舟一箋日返る角
 潮ウレホ更ニ七幸くぬく舟鯛の味船
 玉をかくし乳のうりりん角
 柳糸ハカの垢色いもみもあはれや船

北野の増馬花見のうらるる角
 湯床のくたもちろう口あはれ船
 いもゝ志すの市島啼角
 日ヒにやまじ江エにニもれニ悠トと船
 旗ハタをもあれて仕り舟才三角
 けびを文くするのひつり船
 二日すく目とうや髪カミの香船
 安持佛くやじおみもちひ船
 舟フネの所 桐のうらるる船

目病とも門子ある船日船
子子志ぼくく瘦犬の乳船
山の井の心をれや旗の汁船
糸の白きまのしり船
振袖を刀のさるまのしり船
是をくらひとておの船
波の波戸の泊る船
浪と身井の船ある船
箱刈て物尾よりくる船の船

家とていくつ武蔵州の国府船
市への肩子棒をわらう船
赤い船を横をる船
咲花のほろろくろ塩燗船
よのころさめぬ船

火城の記

一 片の赤糸を引く者も瑞を素此物外で

忠為と成りしり 火神ト 角

名もこの世と多魚一代この昇カキエの座は

なりよれ弱子とら蓋フタぞ我よ似合よ寶

たきして持ナテはは真山のひよより

おろくしておまかへる此罪をいよ

控とよおのより

是もついで

炭よりよ後のむげり 杉木全

一 鬼女の面を船フネもあもろか々古東

より角あもろと黒塚の徳の位

おのり合はるも全く下念の鬼女と

あひあしんもキナもあもろもいぬを

とて源物もあてあしりしく角あ

面をうせけるもあもろこのエま

なりんやいよおみりあはぬを

いふ兼登のこも思ひもいふ世と

新伝してあひの物ぬをいよ

馬後の海より
 雪女 具角
 既あが 目より 白草の長谷 流蓬
 暖より 京を 羽後を せく 是より
 給より 子 障子 展める 角
 山より 岩 流し 七夕月夜 今
 小朱 櫻を 志 厚し しく 散る 蓬
 神の 心 けり けり けり 夏念仏 角
 ま 起し けり けり けり けり けり 蓬
 おし けり けり けり けり けり 角

引る けり けり けり けり けり 蓬
 息 吹く けり けり けり けり けり 角
 雨 寒 けり けり けり けり けり 蓬
 古 君の けり けり けり けり けり 角
 戒 名 けり けり けり けり けり 蓬
 爛 の けり けり けり けり けり 角
 験 子 けり けり けり けり けり 蓬
 六 条の けり けり けり けり けり 角
 梨 餅 けり けり けり けり けり 蓬

数くも色行ふりけり紙考ウカフマリ 蓬
 治序の終る具終りけり 角
 振袖の折筆よりあたる摺ちび 蓬
 いろぬる煙を尺八のあし 角
 ねねりまのころもる片ね手 蓬
 去更あまきをも都をしり 角
 子を誦シカる人々昔の望しき 蓬
 ひろよなを友より恋れりれあ 角
 交車やくん物もつる土用干 蓬

心より酒をさ 女 禁制 角
 沙月乃うらまのあけりけり 蓬
 糸の調シラの華を 炮ホウしる 角
 小便所ウのあも遠きりけり 全
 みしめ隈クマをも忍シノみ 明アキ育ユリ 蓬
 其像イマ子もあてしきる 爪ツメ白髪 角
 小及コウのち刃れ美子こけり 全
 魁カキ範ハシの菴カり詔ミコトノの奥 蓬
 花のひよりを日中一の燈 全

節分

折ノッ豆も戸のあまる方の響哉 亀翁
豆をさうと壺のうら形る笑うふ 其角

元禄辛未歳内立春日於狂而堂燈下書
芭蕉翁回國帰菴時宜相應故被校合早

中か〜縁國大徳さ〜やのの徳の
も泉村よた〜もと〜た〜
人〜集めお〜物海り〜
〜大徳思双希〜書〜
〜な〜
〜と〜
人乃上を〜
〜
〜
〜

あゝ〜くま海なう〜一魚のこ
あゝ〜う海〜舞も世風はゆる
そ〜魚のあゝ〜い〜なまら
とる〜あ〜あ〜世雑活を
う〜い〜海好士との世の人情
此海よあうあ〜一口の刺をう
は〜来〜る〜と〜び〜ろ〜ひ〜て〜編〜集〜と
な〜い〜ぬ〜み〜探〜有〜時〜〜具〜材
於〜は〜海〜〜同〜と〜い〜海〜あ〜い〜

あゝ〜か海かなた〜あ〜い〜物〜あ〜あ
とあゝあ海ああ〜あ〜あ〜あ
海〜い〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あゝ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あゝ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あゝ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あゝ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あゝ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あゝ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

通宝町之丁目
 次巻市兵衛様
 蕭山跋

江敷書坊

通宝町之丁目

次巻市兵衛様

蕭山跋

佛詣羽題集	徳信子撰 諸流發句集	五冊	片歌	道杜子 二本同巻	徳信子撰	二冊	
芭蕉桐の一葉		二冊	同	茶村より	道口	一冊	
其角雜談集		二冊	同	舊宜集	口	一冊	
桑園集	桑園手抄集	三冊	新	文要語	口	一冊	
硯乃代	先途輯	二冊	以	書ふり	口	一冊	
思ふ	桑園白扇集	二冊	寒	葉齋畫譜	口 唐興より	五冊	
根を草	風草子	五冊	水	乃ゆ	糸	東作著	五冊
志道軒傳	右口作	五冊	佛詣	不斷標	高占の句	全	

左傳屬事

南陽先生校
唐本翻刻

廿二冊

大明十三省圖
萬國一器界圖

二牧

龍門先生文集 二編

三冊 歷代事跡圖

大清呂君翰訂正
中華之大繪圖

一牧

大疑錄

貝原先生著

二冊

物類品隲

平賀鳩溪著
物産之書

六冊

經義折衷

金峩先生著
評李陽明集

一冊

十體千字文

篆及異體

陸賈新語

蘭臺先生校本

一冊

六體千字文

崑陵先生書

一冊

王元美尺牘

一冊

猿橋碑銘

諸名家之文
筆墨本

一冊

易學辨疑

金峩先生著

一冊

字畫淵海

筆法之書

二冊

大史華句

唐本翻刻

三冊

石印集誼

彫刻刀法

二冊

拋入花の園

古人作花
乃呂式

三冊

寐惚先生文集

狂詩
小本

一冊

生花千筋藤

入花玉藤
の作

八冊

小説土平傳

狂詩
小本

一冊

古言様

万葉集の詞
魚養撰

一冊

笑天府

唐ノオノハナシ
小本

一冊

百人一首解

栗本氏作

一冊

唐明詩鍵

詩作ノ書
小本

一冊

文琴

あつこ和文の
法辞を集む

八冊

大東地名箋

詩作ノ書
小本

一冊

あつこ料理集

會席の
料理

一冊

詩學小成

詩作ノ書

四冊

民間備荒録

あつこの民と
料理の書

二冊

八子法帖

松花堂の
書札

二冊

信濃地名考

古以終の著

三冊

常盤帖

松花堂の
書札及詩寄

二冊

七觀音經

略緣起入

全

瘡治茶鏡

津田玄仙著

全

唐摹真本十七帖

明邢子京珍藏
東郊先生摹

全

外科撮要

青木紹制述

二冊

揮取先生社中之畫
諸名公四體畫詩

遊戲畫帖

全

西遊紀行

二冊

解體新書

阿蘭陀腑分之書
杉田玄伯著

五冊

四溟陳人詩集

三冊

同 約圖

同右

五枚

郊華集

全

名物畫譜

雪溪先生筆

二冊

繪本いろは歌

春信筆

三冊

市隱草堂集

安文仲著

五冊

繪本色紙乃時

北尾重政筆

三冊

詩學楷梯

東里先生輯

四冊

誦讀名所方角集

谷素外輯

二冊

古今句鑑

谷素外子送

四冊

大成年代廣記

一枚

江戸圖鑑

御大名御席并
恭勤交代附

一冊

滝本書札

三冊

種痘方

一冊

向風抄

二冊

歐陽詢千字文

一冊

今日歌集

望雲
狂哥

一冊

文子

三冊

四聲韻選

二冊

翻譯萬國圖

并畧說
平賀先生著

古詩絕句

一冊

